



発行所

兵庫県精神薄弱者愛護協会
兵庫県育成会施設保護者協議会
〒654

神戸市須磨区友が丘1-1

発行責任者 金附 洋一郎

印刷所 交友印刷株式会社

〒652

神戸市兵庫区水木通9丁目1-34

電話 (078)576-6161

心の時代

兵庫県精神薄弱者愛護協会

会長 金附 洋一郎

平成4年の新しい年明けを迎え、本会が会員諸氏のご協力により更に発展することを希望いたします。

さて最近の大きなニュースといえば、これまで最も難しい社会問題といわれた脳死臨調は1月22日条件つきながら「脳死をもって人の死とする」と答申しました。

私たちは改めて答申を厳粛に受けとめ、死の受容を一人ひとりが決断せねばならぬ時がきたと思います。

「死」は「生」と背中合せに共存しているもので、誰も明日の「死」を予測することはできませんし、死に對しては無防備で無力であるのが現状です。

近年のすばらしい医学の進歩は長寿社会を到来させ、相当に重い障害をもつ人々さえ高齢化に伴う、さまざまな問題に迫られています。

日野原重明は「医療と宗教からみた死生観」のなかで、医師の立場から「今や技術的には医学のめざす目標が可能なレベルまでに到達した。」といっておられるように、いのちを

保障する技術が最高の域に達したことは大変喜ばしいことです。

技術によって「いのち」の幅は可能な限り拡大されますが、ここで忘れてならないのは「深み」をもった「いのちの質」の拡がりではないでしょうか。質の拡がりには私達が、どのように生きたかであり、死を論議していくと必ず「いのちの質」が問われる筈です。「どのように死ぬかは、どのように生きたか」です。

身近な日常生活から地球規模の環境汚染に至る物質偏重や、いじめの構造から「心の時代」に目を向けてほしいと思います。生きることを強く問い直し、真剣に死に直面したとき、「命終に臨むとき大きな喜びがおのずと湧いてくる」(源信、往生要集から)終末でありたいと思えます。

真剣に生きるとは、何も特別な生き方をするのではなく、生あるものの営みをおして人を愛し、人に愛される共生を認め合うことであり、具体的には、患者の側の思いに立つ

て痛みを覚えることから癒しを知るという共生の気持が「心の時代」を形成するのではないのでしょうか。

「脳死」のニュースから「いのちの質」を上げ、共生の21世紀を望むのは私一人ではないと思います。

さて話題を転じて、私達愛護協会は来年9月28日～30日、第31回全国職員研究大会の開催を兵庫県が担当することになりました。既に前年度から準備を進め、研修部8名、参加部8名、会場部8名、総務部8名、合計32名の要員が役割にしたがつて大会案の作業中です。今年度末には更に委員も倍増し、具体案が検討されると思います。大会開催日の最終委員は30名を予定していますので全施設職員のご協力を特にお願いいたします。

予告

第31回全国精神薄弱施設

職員研究大会

開催 平成5年9月28日～30日

場所 神戸ポートアイランド

主会場 神戸国際展示場2号館

分科会場 神戸国際会議場

他17ヶ所

＊愛護の集い＊

九月二十六日(木)県立のじぎく会館大ホールに、三〇〇余名の育成会、施設保護者協議会、愛護協会三者の代表者が集い「愛護の集い」が開催されました。

プログラムは、県・市・県社協・神戸新聞厚生事業団の来賓の方々の挨拶と紹介、続いて「地

域での生活」をテーマにした、施設職員・グループホームの世話人、親の会役員、育成会会長、の4人の実践発表が一時間半行われました。



域でも阪神地域と郡部、日本海側とは、その性格は自から違いますが、それぞれの地域性を生かしながら、皆さん頑張っておられます。国際障害者年も最後の年になり、国連の仕事もしておられる二ノミヤ氏の、欧米とアジア・アフリカ地域に於ける福祉格

差、身体障害者に対する医療からのアプローチが、今日の福祉の性格づけを歴史的に形成していることや、その為、肉体としての人間から、心と魂を持つ人間への復権の問題が、実は本当に問われているとお話は、心に染み込む思いが致しました。

(記 礎)

平成四年

福祉四団体賀詞交換会開く

年始めの恒例行事となった福祉四団体(県愛護協会・県育成会・県施設保護協議会・県施設互助会)の賀詞交換会が一月二十四日、神戸北野町の「六甲荘」でにぎやかに開かれました。

年ごとに来賓の方、出席者が増し、今回は二百二十余人の方々のご参加を得て、『鶴の間』は身動きも自由にできない程の盛会でした。

これは、四団体の団結と精神薄弱福祉の向上を心から願い、この機会に交流と親愛の情を深めるお互いの気持が新しい年に結集されたものだと思います。

最初に兵庫県福祉部長瀬々倉利一氏からは今年こそ福祉先進型の県政の推進に一歩も退くことなく進めたいと力強いあいさつを頂きました。次に神戸市民生局心身障害福祉室



長木村良一氏からも障害者が地域で豊かに共に暮らせるように皆さんと協力して行政を進めたいとのあいさつがあり、参加者に力を与えられた。

乾杯は、県育成会理事長藤原治氏によって行われ、盃を高く掲げ、祝宴を開き、盃を交わし、新年を寿ぎ、新しい年への抱負と期待を語り合い和やかな会が続きました。

最後に主催者を代表して、県愛護協会の金附会長は、精神薄弱者に対するJ・R運賃等の割引実施を運動の成果と称え、時の流れに副う精神薄弱者福祉に四団体が心を合わせ邁進したいと述べられました。大きな拍手のうちに閉会しました。

(事務局)

第26回施設親善陸上競技大会

第26回兵庫県施設親善陸上競技大会が、昨年十月十八日に明石公園陸上競技場で開催されました。

今大会も、第25回大会同様、大変好天に恵まれました。参加施設五十二施設から二二〇七名(園生一五〇六名、職員五一七名、保護者一八四名)が参加し、なかなか雰囲気の中にも、熱気に包まれ、又緊張する場面もあり、大変素晴らしい大会だったと思います。

当大会も実行・運営委員や各関係の方々のご努力により盛況のうちに終えることが出来ましたことを、心からお礼申し上げます。

陸上競技大会種目別順位

◎ロードレース

(児童男子) 一位・宮崎充年(上野丘学園) 二位・岡浩二(さわらび学園) 三位・猪又武志(いちれつ学園)
(成人男子) 一位・鶴崎信幸(もみじ園・協和学園) 二位・岡上幸宣(かしのき園) 三位・関 実(たまも園)
(40才以上男子) 一位・亀広昭男(赤穂精華園) 二位・御所秀治(播磨園) 三位・吉本秀満(播磨園)
(児童女子) 一位・加藤敏江(あけぼの学園) 二位・藤井美恵子(あけぼの学園) 三位・二宮貴子(さわらび学園) (成人女子) 一位・森脇美

江(協和学園) 二位・中川敏江(宝塚さんかの家) 三位・藤内美千代(三美学苑)(40才以上女子) 一位・川崎真知子(香翠寮) 二位・金成子(宝塚さんかの家) 三位・前田加代子(香翠寮)



◎走り幅とび

(児童男子) 一位・鳥羽慎吾(ななくさ学園) 二位・大垣政己(春日学園) 三位・西川真充(春日学園)
(成人男子) 一位・秋山豊(ひのものと青年寮) 二位・田中美好(協和学園) 三位・児島徳英(丹南精明園)
(児童女子) 一位・海原江美子(春日学園) 二位・浜岡一美(三田谷治療教育院) 三位・清水智恵(春日学園) (成人女子) 一位・谷川奈緒美(木の根学園) 二位・田中昭子(赤穂精華園) 三位・大関知子(自立訓練センター)

の根学園) 二位・田中昭子(赤穂精華園) 三位・大関知子(自立訓練センター)

◎ソフトボール投げ

(児童男子) 一位・小笠原正幸(春日学園) 二位・雨宮龍(春日学園) 三位・米山孝司(ななくさ学園)
(成人男子) 一位・森脇洋二(ふるさと寮) 二位・水谷宏(赤穂精華園) 三位・金近秀実(ぎんなん寮)
(児童女子) 一位・田中美穂(赤穂精華園) 二位・勝恵美(春日学園) 三位・片淵鈴香(三田谷治療教育院)
(成人女子) 一位・玉田清美(ゼノの村) 二位・蔵本のお子(ななくさ育成園) 三位・藤内美千代(三美学苑)

◎一〇〇メートル×四人

(児童) 一位・いちれつ学園 二位・さわらび学園 三位・あけぼの学園
(成人) 一位・ひのもと青年寮 二位・もみじ園・協和学園、三位・たまも園

(職員) 一位・春日学園 二位・ひふみ園 三位・もみじ園・協和学園
◎二〇〇メートル×五人

(児童) 一位・さわらび学園 二位・春日学園 三位・あけぼの学園
(成人) 一位・自立訓練センター 二位・赤穂精華園 三位・播磨園
(以上敬称略)

職員部会長 早川 成康

職員部会報告

平素は何かと職員部会の活動に、ご協力をいただきありがとうございます。ご報告いたします。

昨年のバレーボール大会について、ご報告いたします。

昨年の第14回大会は、初めて体育館(明石中央体育館)を用いて開催しました。屋外では出来ないような好プレー、ハッスルプレーの連続で、手に汗握る素晴らしい試合ばかりでした。参加施設13(神戸ブロック6施設、阪神・丹波・但馬ブロック1施設、播磨・淡路ブロック6施設)。今後、多数の参加を期待しています。

(成果は次のとおり)

▽優勝Ⅱひふみ園 ▽準優勝Ⅱ上野丘さつき会 ▽第三位Ⅱ新緑福祉会A ▽敢闘賞Ⅱ赤穂精華園、もみじ会。

なお、今年の15回大会の会場(体育館)については、確保するのが困難な状態です。何か良い方法、意見等がございましたら、お知らせ下さいますようお願い申し上げます。

(部会長 早川 成康)

全国社会福祉軟式野球大会

近畿地区予選二年連続優勝・全国大会出場

玉津むつみの家 堀尾 善也

第九回全国社会福祉軟式野球大会

(社会福祉軟式野球連盟、福祉新聞社主催) 近畿地区予選が昨年九月六日、三田市城山公園野球場で行われた。参加チームは大阪の二チームと兵庫県大会予選の勝者三チーム。

県大会は本年度より播磨地区で二チーム結成され計五チーム(登録者七七名)となった為、近畿大会出場権獲得を目指し八月十七日西脇市西

林寺公園野球場で熱戦が行われた。

近畿大会では我が神戸愛護グリーンズ(総監督、陽

気寮寮長、仲経敬監督、

グリーンホーム平

成 山本

忠明)が二年連続



三田市城山公園 野球場にて

優勝を果たした。

決勝戦は昨年と同じく強豪大阪金剛コロニーで苦戦しながらも最終回劇的な押し出で、サヨナラ勝ちをし全国大会出場権を得た。

全国大会は十月二三日(前夜祭)二四日、二五両日、東京・江戸川区球場などで行われたが、二五日は雨天の為、準決勝、決勝戦を行えず、優勝は連盟預かりとなった。

さて、対戦相手は全国大会常勝で前年度優勝の愛媛県チーム。善戦したが初回で勝負を決められ非常に悔しい思いをした。反省会ではナイン一同、負けた悔しさをバネに「来年こそは、雪辱を！全国制覇を目指し一人ひとりが実力アップを」と、強い決意がみなぎっていた。

全国大会出場に際してマイクロバスを提供して下さったワークホーム緑友を始め多数の方から激励金等を頂き、ナイン一同厚く御礼申し上げます。

なお、十回大会は今年札幌市で、十一回大会は来年十月下旬神戸市で行われることが決定しました。よろしく御協力の程御願い申し上げます。

第29回全国精神薄弱施設

職員研究大会に参加して

平成3年9月11日、13日、三重県長島町長島温泉において、第29回全国精神薄弱施設職員研究大会が開かれました。大会のテーマは、「より豊かな生活をめざして」で、全国各地から二五〇〇名が集まりました。

第一日目は、「生きがいのあるくらしの実現のために」の副題にそって、五施設から発表がありました。その後、「豊かなくらしと人権」今施設に求められるもの」をテーマにシンポジウムがありました。昨年の北海道大会に続き、ゲストコメンテーターとして、ちえおくれの方2名の発言もありました。

第二日目は、17分科会に分かれ、発表と意見交換がありました。さらに15、20名の分科会に分かれ、討議が行なわれました。私は第7分科会「福祉的就労と地域生活」に出席しました。分科会は15名でしたが、授産施設の情報交換のようになつてしまいい、テーマにそった大きな視点での討議を期待していた私には、少し物足りなく思えました。が、参加者一人一人が主体的に会に参加できるという点では分科会も良かったと思います。

第三日目は、静岡、愛知、岐阜県各愛護協会会長による大会総括が行なわれました。愛知県愛護の島崎会長の「ちえおくれの人たちの豊かな生活を実現するためには、福祉教育と人間交流のネットワークを作っていくことが大切」という話がとても心に残りました。

特別講演は、直木賞作家の寺内大吉師で、「あたりまえといふこと」という題で、「あたりまえ」とされていることの原点を見直すことの大切さを話されました。

この大会は、長島温泉内にある5つのホテルを3日間借り切り、宿泊を含め全ての研修が一所で実施されました。そのため、昼食時や夕食後には楽しいアトラクションが用意されていました。東海四県のお国自慢や映画会、郷土芸能交流会等で盛り上がりがありました。ただし、宿泊という点では、私の部屋は兵庫県の人ばかり9名で、狭く感じられました。また、せっかくの全国大会なので、他県の方々と交流をしたかったと思います。

大会に参加して、自分達の日々の実践が本流にそっていることを確認し、自信をもつことができ、大変有意義な3日間を過ごすことができました。

(愛心園指導員 中川裕美子)

仲間であること

それは、そよ風のハーモニとなる

神戸光生園保護者会 会長 牛尾真知子



神戸光生園では、ハンディキャップをもつ人たちが、地域の人たちにより理解を深めていただくために、ヤングボランティア（小中学生）やママボランティアの方たち、またバザー等を通して地域のみなさんとの交流を深めています。十二月中旬の日曜日に日頃お世話になっているボランティアさんや地域のみなさんへの御礼もかねて、利用者と一緒にコンサートを楽しみました。ボランティアさんや卒園生も含め二百三十名が席につき静かに待つ中、黒のタキシードに身をつつんだブリーズ（そよ風の意）ブラスバンドのみなさんが颯爽と入場しました。団員は、二人の女

性も含めて三十一名、みんなキラキラ光る楽器をかかえていて、それだけでもワクワクしてしまいました。園生も間近かに見る金管楽器の数々に目を見張っている様子でした。

全国的にもめずらしいプロのブリティッシュ・スタイル・ブラスバンドということで楽しい楽器の紹介があり、ロサンジュルス・オリンピック・ファンファレの勇しい響きで、まず私たちは圧倒され、コルネットやトロンボーン等各楽器の特徴を生かした楽しい曲の数々にすっかり引き込まれていました。そして第二部は、クリスマスの季節でもありましたので、クリスマスソングメドレーの美しく美しい音色にすっかりクリスマス気分。プロの金管バンドをバックに、讃美歌「きよしこの夜」「もろびとごぞりて」をみんなで歌い、楽しい気分も最高潮となりました。子供達の心に、そして一緒に楽しんで下さったみなさんの心に深く感動を残した一日であったことと思います。子供たちが本物に触れて感動する機会がこれからも増えることを願いつつ、施設も文化を持つ時代がきたことを保護者会も実感しました。

施設紹介

〈精神薄弱者更生施設（入所）〉

社会福祉法人

枚方療育園

三田こぶしの園

所在地 三田市東本庄一八八

電話 (〇七九五) 六八一二五八八

FAX 六八一二六四三

設立 平成二年九月一日

定員 一〇〇人男六〇・女四〇

短期十二人

園長 塩山 勇

職員数 四十一名（嘱託医二）

沿革

三田こぶしの園は、大阪府枚方市津田東町に、昭和四十四年四月に重症心身障害児施設を開設し、引続き特別養護老人ホーム・身体障害者療護施設・看護専門学校などを設置運営している社会福祉法人枚方療育園が、兵庫県三田市東本庄に平成元年度、身体障害者療護園、二年度、特別養護老人ホームに続いて設置した精神薄弱者更生施設として同年九月一日、開設許可を得て十月一日より入所委託を開始してきました。現在入所者は男子六〇・女子四〇計一〇〇名であります。

運営方針

入所者の社会適応性を身につけるため英知と愛情に支えられた施設運

営を行っております。精神薄弱者の特性をより理解し、入所者個々の特性を生かした適切な指導を忍耐強く継続して実施しております。

目標

- ・豊かな心と健康づくりと、安全管理に取り組む。
- ・勤労意欲、生活意欲の向上と技術の習得を図る。
- ・生活習慣のリズム化を図る。
- ・社会適応能力の向上のため、開かれた施設づくりに努める。
- ・職員の健康管理と研修・モラルの高揚に努める。



(居住棟全景)

施設紹介

〈精神薄弱者更生施設(入所)〉

社会福祉法人
神戸聖隷福祉事業団

神戸明生園

所在地 神戸市北区山田町下谷上

字中一里山十四番一

しあわせの村内

電話 (〇七八)七四三・八〇六〇

設立 一九九一年九月一日

定員 50人

園長 河嶋 良男

職員数 26人(嘱託医1人、その他介助員1人)

沿革

神戸明生園は一九八二年に精神薄弱者通所授産施設「神戸聖生園」一九八五年に同「神戸光生園」さらに小規模作業所

を五ヶ所設置

運営し進路対

策や親なきあ

との受皿とし

てさらに将来

のグループ

ホームのバツ

クアップ施設

として一九九

一年九月一日

に設立認可さ

れました。



施設運営の方針

「自分を愛するようにあなたの隣人を愛せよ」とのキリスト教精神に基づき「えおくれの人達がノーマリゼーションの理念により地域社会の一員として尊重され、共同生活を通して必要な生活および作業の援助を受け利用者及び家族の福祉の向上を図り、しあわせの村の精神である自立と連帯をめざします。さらにショートステイを実施し在宅者の福祉にも寄与します。

処遇内容

一、家庭的な四つのファミリーに分かれ小規模の良さと情緒の安定を図り集団生活の規制や画一化を可能な限り少なくします。

二、パーソナルケアを実践し、利用者の個性を尊重して基本的生活習慣の確立や自主性・協調性を養い社会への適応力を高めるための援助をします。

三、作業(受託・農園芸・手芸・織物などの軽作業)や職場実習などで作業する力、就労する力を高め、中・長期プランを設定して可能なかぎり社会参加の道も開拓してゆきます。

四、家庭との協力関係を密接にし可能な限り、週末帰宅を勧め良好な家族関係を維持し家庭学習の機会を多く持ちます。

五、利用者が地域の中の構成員として何らかの役割が果たせるよう「しあわせの村」内や地域との交流参加の機会を多く持ちます。

施設紹介

〈精神薄弱者授産施設(通所)〉

社会福祉法人
姫路睦福祉会

真砂園

所在地 姫路市大津区真砂町28番

地

電話 (〇七九)二三七・八〇七六

設立 平成三年四月一日

定員 三十名

園長 山口清志

職員数 9名

沿革

真砂園は、障害をもつ子の親として、学校卒業後施設に入所したくてもできない多くの子供達に、福祉就労の場をつくらうと、平成三年四月一日に開設しました。これからは、姫路市南西部の精神薄弱者(児)のための中核施設として、地域に密着した施設をめざし、地域福祉の向上に努めてまいります。

施設運営の方針

一般社会に就職することが困難な精神薄弱者(児)が通所することにより、生き甲斐のある安定した生活の場を提供するとともに、地域との交流に務め、園内での生活とは違つた体験を豊富に取り入れた訓練・指導を行う。

授産内容

一、パン班

園生4名(女子3名・男子1名)と職員2名で、毎日食パンを製造し、姫路市役所・喫茶店・その他色々な方に購入していただいております。

二、クッキー班

園生3名(女子3名)と職員1名で、現在5種類のクッキーを手造りで製造し、幼稚園・バザー・喫茶店等にて、購入していただいております。

三、外注班

園生16名(男子8名・女子8名)と職員5名で、割りバシの袋詰作業及び醤油のタレ瓶作業等に励んでいます。

以上紹介しましたとおり、現在真砂園には、23名(軽度3名・中度4名・重度16名)が通園しており、各人が各々の能力に応じて、各班にて作業に励んでいます。

